

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101611		
法人名	株式会社 矢野工務店		
事業所名	なるたきグループホーム		
所在地	青森県青森市西大野5丁目7-6		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成29年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・四季を感じていただけるように、リビング内のボードを季節毎に飾り付けている。また、その装飾も利用者様に行っていたり、季節を感じていただきながら、作品作りにも励んでいる。</p> <p>・レクリエーション活動では、個々の状態に応じて活動内容を工夫しており、皆で楽しみながら行うことができるようにしている。</p> <p>・空き時間では、軽体操や歌を歌って過ごされいるが、利用者様同士で自発的に行っていたり、わかりやすいプログラムを作成している。また、体を動かしながら、歌やクイズを行う等、笑顔を引き出し、楽しんで行っていたりするように工夫している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは幹線道路沿いの新興住宅地に立地しており、前町内会及び現町内会との繋がりを強く持ち、地域に開かれた施設となるよう、管理者及び職員はしっかりとチームワークで日々のケアにあたっている。</p> <p>利用者の重度化に対応するべく、協力医療機関との連携によりターミナルケアを行い、利用者が安心して、最期までホームで過ごせるよう、全職員が一丸となって取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スペースに理念を掲げ、全職員が把握できるようにしている。理念を基にサービス提供がなされるよう努めている。	地域社会とのふれあいや利用者の主体的な生活環境を提供する等、地域密着型サービスの役割を踏まえたホーム独自の理念を作成している。また、職員が理念の持つ意味を考えることができるよう、ホーム内に掲示している他、会議やミーティングでも共有する取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と散歩中に挨拶を交わしたり、近所の美容院の方が来られ、散髪をしていただく等、コミュニケーションを図っている。	運営推進会議の中でホームを理解してもらうと共に、地域の町内会や民生委員等を通して、近隣住民に気軽に立ち寄っていただけるように働きかけている。また、高校生の訪問等による交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者や外部の方が来られた際は、利用者様の特定ができないよう配慮している。看護学部の実習生を受け入れ、認知症についての理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで開催し、ご家族様、地域の方、関係者様に参加していただいている。施設の現状を知っていただきながら、様々な御意見やアドバイス等、貴重なお話を聞くことができている。また、地域活動の情報を得たり、意見交換を行いながら、サービスの質の向上に繋げている。	運営推進会議には、利用者家族や旧地域（ホーム移転前）町内会長及び現地域町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加があり、2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの運営状況の報告の他、防災訓練への協力を働きかけたり、メンバーと意見・情報交換を行い、より良いホーム運営に繋げる取り組みを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から、情報交換や相談、アドバイスをいただく等、連携を図っている。運営推進会議への参加呼びかけも毎回行っている。	市役所へ利用者の生活保護等について相談し、詳細に教えていただく等、必要に応じて連携を図っている。また、地域包括支援センターに、ホームの空き情報や利用者の情報を話し合ったり、問題事が生じた際にはその都度、解決に向けて相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い、全職員が理解に努め、また、身体拘束をしなくても済むようにアセスメントを行い、ケアを行っている。各部屋は自由に出入りできるようになっている。玄関の鍵も簡単に開けられるものになっているが、ご家族様の同意の下、防犯上、施錠している。	身体拘束はしない方針である事を運営規定に明記し、マニュアルが整備されている。また、やむを得ず身体拘束を行う場合の家族からの同意や経過記録等の様式も整備されている。職員は内外の研修に参加して、身体拘束の内容や弊害を理解しており、利用者の言動や行動に配慮しながら、日々のケアにあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について勉強会を行い、全職員の理解に繋げている。日々のケアの中で虐待行為にあたるケアを行っていないか、職員一人ひとりが確認し合い、適切なケアの提供に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強会にて、全職員が理解できるようにしている。制度が必要な際は早期に関係機関と連絡を取り合い、対応できるようにしている。玄関にパンフレットを置き、ご家族様への周知に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所相談の時点で、施設の方針や料金の説明等を全て説明し、納得された後で契約を交している。料金の改定時は事前説明を文書で行い、施設にて更に説明を行い、承諾後、同意書を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、施設内と外部の相談窓口をお伝えしている。また、ご家族様とは日頃から情報交換を行い、苦情になる前の段階での質問等に答え、認識の共有に努めている。利用者様の言動や行動から訴えを把握できるように努め、職員間で話し合い、解決に繋げている。	重要事項説明書の中で苦情に対する窓口や対応方法を明記しており、苦情処理簿により、速やかな対応を行う体制が整備されている。玄関に苦情対応窓口を掲示している他、職員は利用者の表情や行動を観察しながら、日常の会話を通して、意見や要望を引き出すように努めている。また、家族面会の際、利用者の近況報告をしながら、意見や要望の有無を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時やその都度職員の意見を確認し、参考にしながら決めている。	毎月の会議や毎日のミーティングの中で、利用者の受け入れや待機者等、利用者に対する全ての事について意見交換が行われている。職員から意見や提案があった時はすぐに取り入れ、申し送りで伝達する等、反映される仕組みが整えられている。また、管理者は職員の意見を聞きながら、勤務体制を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断は年2回実施し、ワクチン接種を行う等、心身の健康を保つ体制を整えている。また、就業規則に則って業務を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれのレベルに応じた研修へ参加している。研修後は報告書を作成している。また、施設内の勉強会においても、一人ひとりのスキルアップに繋がるように、レベルに応じた勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多種多様な地域の方と関わりを持ち、他施設との交流や各イベントへの参加ができており、意見交換や情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とは必ず直接面談し、安心していただけるような関係を築いている。また、不安な事や心配事が何であるか引き出し、解決できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とは事前に直接面談し、何でも話していただけるような関係づくりに努めている。相談があった時点で、心配事や不安に思っている事を聞き出し、それに対し、必要なサービスをアドバイスさせていただいている。また、サービス開始となった際も引き続き意見交換を行い、不安感が解消できるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容とご本人様の状況を確認させていただき、施設で提供できるサービスとできないサービスをお知らせしている。必要に応じて、関係機関や他施設へのご案内をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの力量を見極め、どのようなケアで自立した生活を送ることができるのか、カンファレンス等で話し合っている。日々の生活の中で、一人ひとりが力を発揮しながら生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後もご家族様とは情報を共有し合い、必要な支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの人間関係を大事にしており、面会その他、馴染みの場所への買い物やドライブ等を行っている。	入居前や入居時に、利用者及び家族から、生活歴や友人・知人関係を聞き取りして把握している他、日常の会話の中からも把握し、これまでの交流や関係を継続できるように支援している。また、利用者の希望により、市内の外出支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様それぞれの性格や趣味・嗜好に合わせた空間にしている。また、その時々で利用者様同士の交流を図ることができるよう、席を工夫する等、配慮させていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもご家族様との関係性を大事にし、必要時はアドバイス等をさせていただいている。退去先へ情報を提供し、継続したケアができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の生活歴やご家族様の意見を参考に、コミュニケーションを図っていく中で希望や思いを引き出し、ご本人様に寄り添うケアの提供に努めている。	生活歴の再確認や利用者及び家族から再度聞き取りを行う等して、利用者の意向確認を行っている。職員は利用者との日常の関わりの中で、表情や言葉の端々、仕草等から判断し、利用者の視点に立って、意向等を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にある程度確認し、対応方法を検討している。入所後もご本人様やご家族様、関係のある方から情報を得ながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの心身の状態の把握に努め、その方のその日の状態に合わせたサービス提供をさせていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様、担当職員と話し合い、ご本人様の意向を取り入れたもののできるよう作成している。また、定期的にご家族様や担当職員とモニタリングを行い、次のケアに活かしている。	利用者本位をサービスの基本と考え、利用者及び家族の意見や希望、目標の他、職員の気づき等を共有し、介護計画を作成している。定期的にモニタリングと評価を行い、利用者の心身状況の変化や利用者及び家族の意向に変化があった場合は、再度アセスメントを行い、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践と結果内容を個人ケースへ記入している。全職員が情報を共有して、利用者様の状態を把握できるようにし、次のケアへ繋げるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態に応じた必要なニーズを提供できるよう、他業種との連携を図り、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの図書館より本や紙芝居を借りたり、地域のグループホームの祭りへの参加、近所の美容院による散髪サービス等、地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続はもちろん、必要時の専門病院の受診もご家族様の協力を得ながら行っており、情報の共有も行っている。	入居時の聞き取りにより、これまでの受療状況を把握し、希望する医療機関への受診継続や往診、病状による専門医への受診ができるように支援している。受診結果は電話や手紙で家族へ報告している他、必要時には受診時に家族へ付き添いを依頼し、医師から病状の説明、治療方針を話し合い、情報の共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院との医療連携体制を整えており、緊急時の往診や必要に応じたアドバイスをいただいている。その他、様々な情報交換も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供と入院中の様子の把握はこまめに行っている。それにより、退院に向けた話し合いも、病院やご家族様、施設側とで早期にできるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、入所の段階で意識していただけるように伝えている。日々の状態はもちろん、重度化していくにあたり、今後について、ご家族様と主治医、施設側とで話し合い、方針を決めている。終末期においては、ご家族様と病院側、施設側とで話し合い、マニュアルに沿って対応することを説明し、同意を得ている。	看取りに関する対応指針が整備されており、契約時に利用者及び家族へ、具体的な支援内容や緊急時の連絡、対応方法を説明している。状態変化時や家族面会時に再度確認し、医療機関と家族、職員で連携を図りながら支援していく体制が整備されている。また、指針を基に、職員の不安や疑問点についても会議で話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や応急処置についてマニュアルを作成し、活用している。緊急連絡網や救急車への連絡の仕方も併せ、実践練習を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や消火訓練を行っている。避難経路の確認の他、懐中電灯や非常食のチェックも定期的に行っている。地域の方の協力が得られるよう、運営推進会議等で協力を仰いでいる。	緊急時連絡網を整備し、ホーム内に掲示している。年2回、日中・夜間を想定した避難訓練を利用者と職員合同で行っており、運営推進会議メンバーの町会長や町内会役員、地域住民の参加もある。消火器は年2回、業者に点検を依頼している他、災害発生時に備え、2、3日程度の食料品、飲料水、暖房具類を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より、職員に守秘義務や個人情報の取り扱いについて説明している。声かけや接し方については、利用者様一人ひとりに合わせた対応ができるように心がけている。	運営規定の中に守秘義務や個人情報の取り扱いについて明記しており、職員は、採用時に文書により同意している。職員は常に年長者としての利用者を敬い、受容的態度で接し、排泄や入浴介助時は特にプライバシーや羞恥心に配慮して、声かけや誘導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とコミュニケーションを図りながら、希望や思いを引き出し、自己決定ができるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のその日の心身の状況やペースに合わせ、支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様一人ひとりに応じた支援を行っている。また、行事の際、普段お化粧をしない方にも行っていただくと、喜ばれる方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食べ物や禁止の際は代替品を提供している。誕生日には誕生日者が好きなメニューを組み込んでいる。食後の後片付けを行える方には、職員と共に行っていただいている。	職員は予め利用者の好みや禁忌食を把握しており、交替で献立を作成している。季節の野菜を多く取り入れ、利用者の咀嚼状況に応じて代替食を提供する等、食形態にも配慮している。利用者の重度化に伴い、介助量が多くなっているが、下拵えや食膳の後片付け等、利用者の能力に応じて手伝っていただいている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの状態に合わせた食事形態、食事量で提供している。状態に変化が見られた際は、都度、見直しを行っている。また、食事摂取量と水分量は毎回確認し、少ない時はおやつ時に工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人ひとりのその日の状態に合わせた口腔ケアを、毎食後実施している。義歯を毎食後外す方やガーゼで口腔ケアを行う方等、それぞれに対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握した上で、排泄介助を行っている。また、一人ひとりの状態に応じて、介助方法や排泄用品を変え、その方のその時に適したやり方で対応している。	排泄チェック表により、利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、排泄時間やパターンに応じて事前誘導を行い、支援している。特に、失禁時はさりげなく誘導する等、羞恥心に配慮している。また、排泄の自立に向けた話し合いを随時行い、利用者には負担感が見られた場合は、無理に自立に向けた支援は行わず、トイレでの排泄を意識付けるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動量、一般状態、内服薬について把握し、スムーズに排泄がなされるように、不足している部分を補いながら、自力排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりのその日の心身の状況に応じて、対応をしている。	入居時に利用者及び家族から入浴習慣や好みを聞き取り、日常の会話の中からも把握するようにしている。週2回を基本としているが、それ以上の入浴も可能であり、1対1での対応の他、車椅子利用者の状態に応じて、職員2名で対応し、安全面に配慮している。また、入浴拒否に対しては、時間を置いて声がけしたり、散歩して気分転換の後に誘う等、工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活パターンを把握し、対応している。昼夜逆転しないように、日中は個々に活動を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに処方箋をはさんでおり、全職員が把握できるようにしている。処方に変化した際も全職員が把握できるようにしており、利用者様の状態の変化に早期に対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴を基に利用者様の趣味や嗜好を把握し、それらを取り入れながら、活動を提供している。また、新たに好きな事、興味のある事等を引き出して提供することで、日々の活動が楽しいものになるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力も得ながら、墓参りや希望の場所へ出かけている。天候を見ながら、ドライブや散歩、買い物外出へ出かけている。	利用者の重度化に伴い、長距離の外出は行わず、利用者の身体状況やその日の気分、体調に合わせて、ホーム周辺の散歩や買い物、車椅子専用車を使用したドライブ等、負担感や疲労感に配慮した外出支援を行っている。また、必要に応じて、家族へ外出の協力を依頼している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、トラブル防止のため、ご家族様、ご本人様了承の下、預かっている。特に要望等も無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様との手紙のやりとりを目標に、空き時間を利用して、手紙や塗り絵の作成に取り組んでいる。遠方の親族の方より電話連絡があると、会話を楽しまれたり、ご本人様の状況をお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がわかるように施設内の装飾を行い、馴染みの風景、馴染みの人達の中で、居心地の良い、生活感のある空間を提供している。	ホールの壁は白色で、明るく、清潔な印象であり、扉は木目調の落ち着いた感じである。吹き抜けからは自然光が差し込み、ゆったりとした空間となっている他、加湿器を数台設置し、適切な温度・湿度管理に努めている。また、壁には、職員と利用者が一緒に作成した季節の飾り付けがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人ひとりのその時の状況に応じた場所を提供している。座敷スペースやソファ等、いつでも寛ぐことができる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様と相談し、臨機応変に対応している。部屋の中は、その方に合わせたベットやタンスの配置となっている。	入居時に利用者の慣れ親しんだ物品の持ち込みを働きかけており、家族写真や位牌、椅子等の持ち込みがある。基本的にベッドと筆筒はホーム備え付けであるが、低床ベッドや布団の対応をする等、利用者の好みや生活習慣に配慮した配置を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの残存能力を見極め、少しでも、安全に自立した生活を送ることができるよう、ケアの仕方を工夫しながら、サービスの提供に努めている。		